

MacTeX の日本語設定

2015 年 5 月 9 日

MacTeX をインストールしただけでは、うまく日本語を扱うことができません。和文文書を作成するための準備が必要です。本文書では、MacTeX インストール後に和文文書を作成するための初期設定手順を解説します。

設定にはターミナルでコマンドを打ち込む必要があります。ターミナルは

```
/Applications/Utilities/Terminal.app
```

にあります。Finder で **Command + Shift + U** を押して「ユーティリティ」フォルダを開き、「ターミナル」アプリをダブルクリックするのが簡単でしょう。

1 tlmgr を用いたアップデート

まずは、TeX Live レポジトリの内容を最新版に更新するため、次のコマンドを打ち込んで実行してください（管理者ユーザで実行していることを前提としています）。

```
sudo tlmgr update --self --all
```

このとき、パスワードが問われます。このとき、セキュリティ上の理由により、**打ち込んだパスワードは画面に一切表示されません**。パスワード文字数が見えてしまうのを防ぐため、****** のようなマスク文字も表示されません**。そのため、まるでキーボードが効いていないかのように見えますが、入力はされていますので、気にせずにパスワードを最後まで打ち込んで、return キーを押してください。

なお、**sudo** は管理者権限を用いて実行するためのコマンドです。一度実行すると、それからしばらくの間はパスワードなしで **sudo** を連続実行できます。

2 ヒラギノフォントの準備

続いて、OS X に標準で用意されている美しいヒラギノフォントを $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ で使用するため、次の一連のコマンドを実行してください。一行ずつ順番に実行してください。

```
sudo mkdir -p /usr/local/texlive/texmf-local/fonts/opentype/screen/hiragino
cd /usr/local/texlive/texmf-local/fonts/opentype/screen/hiragino
sudo ln -s "/Library/Fonts/ヒラギノ明朝 Pro W3.otf" HiraMinPro-W3.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/ヒラギノ明朝 Pro W6.otf" HiraMinPro-W6.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/ヒラギノ丸ゴ Pro W4.otf" HiraMaruPro-W4.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/ヒラギノ角ゴ Pro W3.otf" HiraKakuPro-W3.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/ヒラギノ角ゴ Pro W6.otf" HiraKakuPro-W6.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/ヒラギノ角ゴ Std W8.otf" HiraKakuStd-W8.otf
sudo ln -s "/System/Library/Fonts/ヒラギノ明朝 ProN W3.otf" HiraMinProN-W3.otf
sudo ln -s "/System/Library/Fonts/ヒラギノ明朝 ProN W6.otf" HiraMinProN-W6.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/ヒラギノ丸ゴ ProN W4.otf" HiraMaruProN-W4.otf
sudo ln -s "/System/Library/Fonts/ヒラギノ角ゴ ProN W3.otf" HiraKakuProN-W3.otf
sudo ln -s "/System/Library/Fonts/ヒラギノ角ゴ ProN W6.otf" HiraKakuProN-W6.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/ヒラギノ角ゴ StdN W8.otf" HiraKakuStdN-W8.otf
```

3 游フォントの準備

OS X 10.9 Mavericks 以降では、字游工房の高品質な游フォント（游明朝体・游ゴシック体）も用意されています。10.9 以降の OS X をお使いの場合は、これも $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ から使えるようにしておきましょう。次の一連のコマンドを実行してください。

```
sudo mkdir -p /usr/local/texlive/texmf-local/fonts/opentype/jiyukobo/you
cd /usr/local/texlive/texmf-local/fonts/opentype/jiyukobo/you
sudo ln -s "/Library/Fonts/Yu Mincho Medium.otf" YuMin-Medium.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/Yu Mincho Demibold.otf" YuMin-Demibold.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/Yu Gothic Medium.otf" YuGo-Medium.otf
sudo ln -s "/Library/Fonts/Yu Gothic Bold.otf" YuGo-Bold.otf
```

4 Ghostscript のフォント設定

MacTeX で TeX Live とともにインストールされる Ghostscript でも日本語が使えるようにするため、次の一連のコマンドを実行してください（' は半角のシングルクォートです）。

```
sudo mkdir -p /usr/local/texlive/texmf-local/fonts/truetype
cd $(dirname $(gs --help | grep "Resource/Font" | awk '{print $1}'))
sudo zsh -c "rm ./CIDFont/*(@) ./CIDFSubst/*(@)"
cd /usr/local/texlive/2015/texmf-dist/scripts/cjk-gs-integrate
sudo perl cjk-gs-integrate.pl --link-texmflocal
```

なお、システムに小塚フォントやモリサワフォントがインストールされている場合、上記の一連のコマンドを実行すると、それらを TeX および Ghostscript から使用する準備も同時に整います。

5 仕上げ

仕上げるに、次のコマンドを実行します。デフォルトでヒラギノフォントが埋め込まれた PDF が作成されるようになります。

```
sudo mktexlsr
sudo kanji-config-updmap-sys hiragino-pron
```

なお、

```
sudo kanji-config-updmap-sys yu-osx
```

とすれば、游フォントが埋め込まれるようになります。

同様に、システムに小塚フォントやモリサワフォントがインストールされている場合も、kanji-config-updmap-sys コマンドで埋め込み設定が可能です。

```
kanji-config-updmap-sys status
```

を実行すれば、現在使用可能なフォント設定を確認できます。

6 TeXShop の日本語設定

続いて、MacTeX によってインストールされる、標準的な TeX ソースエディタ **TeXShop** の日本語設定を行いましょう。TeXShop は

`/Applications/TeX/TeXShop.app`

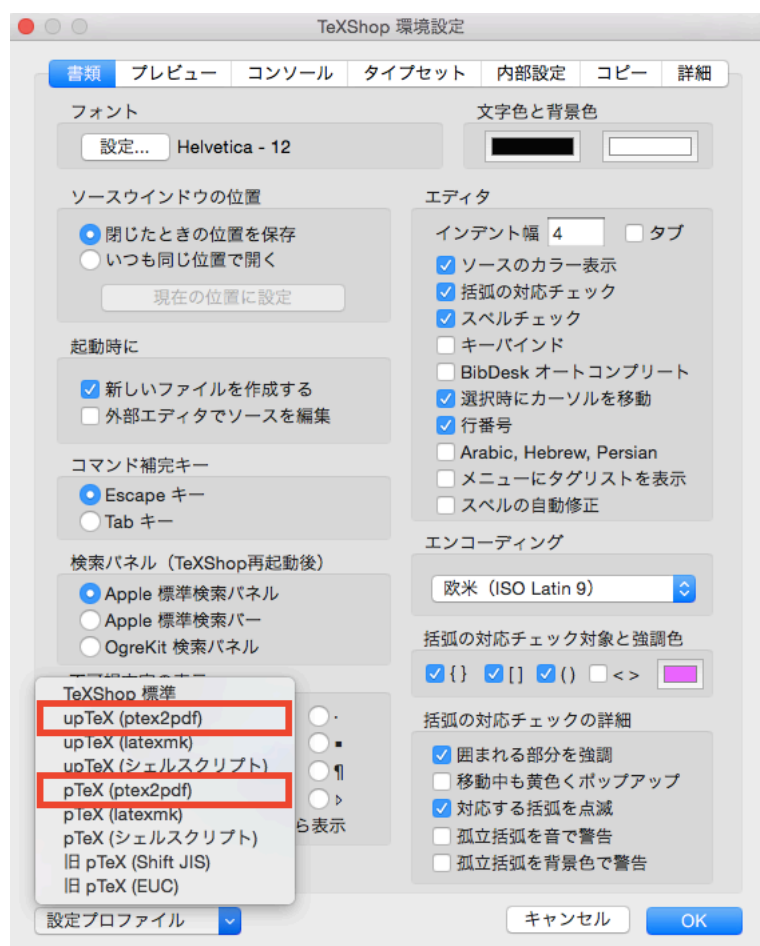
にインストールされています。

起動して、メニューから

TeXShop → 環境設定...

を開いてください。設定画面が現れますので左下の「設定プロファイル」をクリックします。

Unicode を活用できる upLaTeX を使用する場合は upTeX (ptex2pdf) を、従来の pLaTeX を使用する場合は pTeX (ptex2pdf) というプロファイルを選択してください。



また、フォントは初期状態では Helvetica - 12 になっていますが、等幅フォントを使用したい場合は Osaka - 等幅 に変更しておくとお見やすいでしょう。

プロファイル変更を終えたら、OK ボタンを押して環境設定を確定させ、一度 **Command + Q** で TeXShop を終了させましょう。

その後、ターミナルで次のコマンドを実行しておきましょう。^{*1}

```
defaults write TeXShop FixLineNumberScroll NO
defaults write TeXShop SourceScrollElasticity NO
defaults write TeXShop FixPreviewBlur YES
```

そして、改めて TeXShop を起動します。

これで準備は完了です！

7 はじめての L^AT_EX

和文 L^AT_EX 文書を作成してみましょう。TeXShop で次の文書を作成してください。

なお、下記の例は upL^AT_EX を使う場合のソースです。従来の pL^AT_EX を使う場合、1 行目の `uplatex` は除いてください。

```
\documentclass[dvipdfmx,uplatex]{jsarticle}
\begin{document}

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとうんを見当がつかぬ。
何でも薄暗いじめじめした所で
ニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。
吾輩はここで始めて人間というものを見た。

\end{document}
```

なお、ソースウィンドウ上のスペルチェックが鬱陶しいという場合は、

環境設定... → 書類 → エディタ → スペルチェック

および

編集 → 入力中にスペルチェック

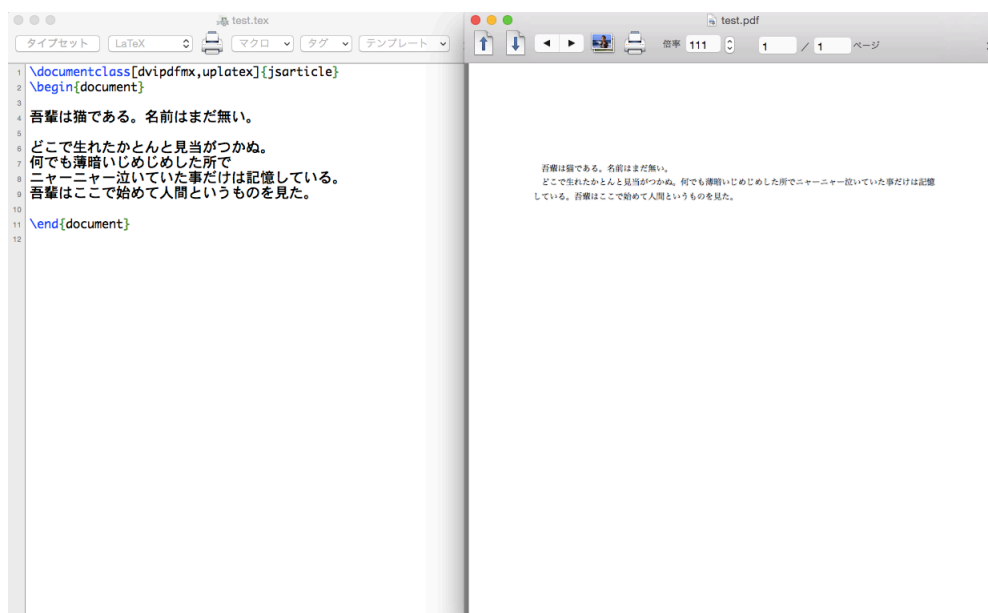
^{*1} 1 行目は、(10.7 Lion など) 古い OS X において、行番号がスクロールしない OS 側のバグに対処するための対症療法を停止させる措置です。最近の OS X ではこのバグが修正されていますので、この対症療法は不要となりました。対症療法が残っていると、スクロール速度が遅くなる原因となります。

2 行目は、スクロール時に上下端で大きく跳ね返るバウンスエフェクトを停止させる措置です。OS X 10.10 Yosemite では、このバウンスがかなり大げさになり、以前の OS X と比べて鬱陶しさが目立つようになりました。ですからこのエフェクトは停止させておくのがよいでしょう。

3 行目は、OS X 10.10 Yosemite において、プレビューウィンドウの PDF が (一部の環境で) ぼやけて見えてしまうのを防止する措置です。

のチェックを外してください。

この文書に適切なファイル名を付けて保存し、Command + Tを押してコンパイルします。生成された PDF が表示されれば成功です！



L^AT_EX のより進んだ使い方は、奥村晴彦先生の [TeX Wiki](#) や『L^AT_EX 2_ε 美文書作成入門』を参照してください。

また、TeXShop には多彩な機能があります。メニューや環境設定を探てみると、便利な機能の数々が見つかることでしょう。